



<https://webmap.city.fukuoka.lg.jp/fukuoka/>

「福岡市Webまっぷ」では市の行政情報や地域情報を、インターネットの地図を通じて公開しています。今年度からは埋蔵文化財（遺跡）地図の公開も開始しました！

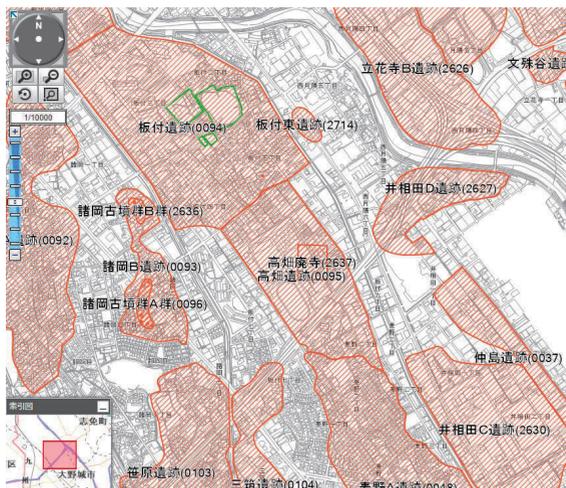
Webまっぷでは各種地図の切り替えが可能です。遺跡を表示させた場所で洪水ハザード



福岡市Webまっぷ  
トップページ

マップに切り替えると、板付遺跡や高畑遺跡の中心部は、洪水の被害を受けにくい小高い場所に立地していることがわかります。

一部の古墳や城跡などを除くと、地下に眠る遺跡に気づくことはほとんどないでしょう。Webまっぷは普段何気なく通り過ぎている場所など、意外なところに遺跡があることを教えてくれるかもしれません。



地図の中央が高畑遺跡。その範囲内には古代寺院（高畑廃寺）などもあったと考えられている。

# 歴史の風

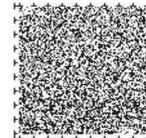
ふくおか文化財だより

Vol.39  
2023年3月号



重要  
文化財級！

特集 発掘された高畑遺跡～青銅器鑄型の発見～



音声コードのご利用には、Uni-Voiceのダウンロードが必要です。

編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部  
〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 / TEL : 092-711-4666  
福岡市の文化財HP : <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

福岡市の文化財 fukuoka\_bunkazai



# 発掘された高畑遺跡 ～青銅器鑄型の発見～

福岡市内では令和4年度に約50件の発掘調査を実施しています。その一つ、高畑遺跡の調査では、約二千年前の青銅器の鑄型セットがほぼ完全な形でみつかりました。今回はこの鑄型を中心に、高畑遺跡の調査成果を紹介します。

青銅とは銅に錫や鉛などを混ぜた合金です。青銅器は熱で溶かした合金を鑄型に流し込んで作られます。日本列島では弥生時代から青銅器の使用と生産がはじまりました。

今回紹介する資料は銅戈の鑄型です。戈は柄に装着して使用する戦闘用の武器ですが、この鑄型で作られた銅戈は鋭利さを欠く大型品であり、武器としての機能はありません。

弥生時代の武器形青銅器は大型化とともに武器から祭器へと変化しました。

市埋蔵文化財センターで今回の鑄型を3D計測したところ、戈の部分は全長44.26cm、最大幅20.63cmでした。広形銅戈と呼ばれる、祭器への変化が最も進んだタイプです。

広形銅戈の鑄型は、この他に

高畑遺跡（博多区）は板付遺跡の南に位置する弥生時代から平安時代を中心とする遺跡です（裏表紙地図）。その最新の調査となる第23次調査で、弥生時代の広形銅戈の鑄型が2個出土しました。2個は合わせ型としてセットで使用されたものとみられます。セットとなる鑄型がほぼ完全な形で出土するのは極めて希少な発見です。



▲ 銅戈の3Dモデル

福岡市東区多田羅大牟田、春日市大南、糸島市三雲などの出土品がありますが、10点にも満たない発見です。完形品は国の重要文化財になっている資料もあります。

鑄型の近くからは青銅を溶かして鑄型に注ぐための器である取瓶も出土しており、この遺跡で希少な青銅器が製作されたことが明らかになりました。



第23次調査の作業風景



弥生時代後期の井戸

井戸の底から祭祀に使用された壺などが出土。遺跡では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居、掘立柱建物、井戸、溝などからなる集落跡がみつまっている。



奈良時代の道路跡

大宰府の水城東門から博多方面に向かって一直線に伸びる古代官道の一部。23次調査では台地を縦断する幅約10mの切り通しとなっている。遺跡では鬼瓦を含む瓦を葺いた建物や、木材と瓦塼を組んだ井戸などもみつかり、駅家と呼ばれる古代の交通に関わる公的施設があったと考えられている。



▲ 鑄型B

鑄型Aにはない鏃（やじり：弓矢の先端）の型も彫り込まれている（赤点線範囲）。



▲ 鑄型の出土状況

2個とも裏面に上に、弥生時代後期の土器等と出土した。



▲ 人面墨書土器（第17次調査）

奈良時代のおほらいに使用された土器や人形なども出土している。

もっと知りたい！



高畑遺跡についてもっと知りたい！そんな方のために、福岡市内の図書館などで閲覧できる資料をご紹介します。

◇『福岡市史』資料編考古2 遺跡からみた福岡の歴史-東部編- 福岡市史編集委員会 2020

◇「新発見速報展 発掘されたふくおか2023」鑄型などを福岡市埋蔵文化財センターで公開（令和5年5月7日まで 月曜休館）